

## 2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 2 日作成)

小委員会名	都市の水辺小委員会		主 査 名：市川尚紀 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (水環境運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：大塚雅之
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	設置目的：水辺の公共性や組織的な仕組み、水辺を取り巻く社会制度の整理など 活動計画：2013 年度 問題設定と議論の枠組み設定 2014 年度 事例収集と現地調査		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：市川尚紀 (近畿大学) 幹事：山田圭二郎 (京都大学) 委員：村川三郎 (広島大学)、畔柳昭雄 (日本大学)、上山肇 (法政大学)、坪井塑太郎 (日本大学)、大橋南海子 (まちづくり工房)、岡村昌義 (アトリエ鯨)、菅原遼 (長谷工コーポレーション)、岡村幸二 (建設技術研究所)		
設置 WG (WG 名：目的)	無し		
2014 年度予算	75,000 円	ホームページ公開の有無：無し 小委員会 HP アドレス：無し	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. 「親水空間論—時代と場所から考える水辺のあり方—」
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 5 月に書籍出版できた。 2. 法政大学都市政策セミナー「人と水が共生する都市空間」において委員が講演を行った (参加者 40 名)。 2. 日本都市計画学会学術研究論文発表会 WS で、出版した書籍の序論について議論し、他分野の研究者との交流を深めた (参加者 23 名)。 3. 今後進めていく水辺の公私利用計画論の重要事例として、「宮島・紅葉谷川の庭園砂防」を視察した。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 水辺の公私利用計画論については、山田委員、岡村委員に取りまとめを引き継ぐことにした。

## 2014 年度 小委員会活動 自己評価

## (最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>小委員会は、当初の予定通り 5 回開催する予定 (3 月の委員会含む) であり、それらの活動によって、以下のような成果を得た。</p> <p>まず、本小委員会前身の都市と親水小委員会で議論されてきた内容を、「親水空間論」という書籍として出版することができた。そして、法政大学都市政策セミナーと日本都市計画学会大会WSにおいて、本書籍の内容に関する議論を行い、分野横断的な議論ができた。</p> <p>また、今後の活動の原点ともなり得る「宮島・紅葉谷川の庭園砂防」を、委員全員で視察できたことは大いに有意義であった。</p> <p>今後は、環境工学委員会のもとで水辺の公私計画論を議論する意義について再検討し、次の書籍出版に向けて、事例収集と分析作業を進める必要がある。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。